EVENT GUIDE

2026年
10月-11月のイベント

ススキの迷路	10/10（土） ～11/3（火）	北の原のススキ草原に迷路が出現。 期間中は自由に遊ぶことができます。		
月イチガク⑦フィールドワーク **まじ歩き！** ～鳴砂と銀の積み出し港～	10/17（土） 14:00-17:00	馬路まちづくりセンターから琴ヶ浜経由で鞆ヶ浦まで往復約3.6kmを歩きます。	定員：20名 料金：100円	要予約
きっずサンデー	10/18（日） 11/15（日）	島根県の「しまね家庭の日」にあわせ、きっずプラネタリウムやテンピーとのふれあいなど、キッズ向けイベントが満載の1日。	定員：なし 料金：入館料 ※小中高生無料	
村上康成原画展 絵本で感じる、もりと、かぜと、わたし	10/24（土） ～12/6（日）	自然をテーマにした創作絵本を中心に活動する作家である村上康成さんの作品を多数展示する原画展です。	料金：入館料	
さんべの森たんけんたい **木の実で遊ぼう＋たき火**	10/25（日） 10:00-14:00	どんぐりや松ぼっくりを使った秋ならではの遊びとたき火を楽しみます。	定員：親子6組 料金：1家族500円	要予約 対象：幼児から小学校低学年を含む家族
化石発掘体験	10/25（日） 9:30-11:30	出雲市佐田町で貝などの化石発掘を体験。採取した化石は持ち帰ることができます。	定員：20名 料金：1名/500円	要予約
さわってみよう♪ **わくわくワゴン**	10/25（日） 11/22（日）	普段はさわることができない標本ですが、この日はワゴンに乗って登場！楽しいお話で生き物の不思議にせまります。	定員：なし 料金：入館料	1日2回実施 ①13:00～ ②14:00～
紅葉の三瓶で **自然観察登山**	11/1（日） 9:00-15:00	紅葉を中心に季節の自然を観察します。 東の原から孫三瓶にリフトを使って登ります。	定員：20名 料金：大人1500円 小人1000円	要予約 料金はリフト代込
月イチガク⑧ **三瓶にひびく笛太鼓** ～田植囃子の民俗学～	11/14（土） 14:00-15:30	田植え囃子に込められた豊作への祈りと継承されてきた歴史を多田房明さんにうかがいます。	定員：会場20名 オンライン100名 料金：入館料	要予約 オンラインは無料
公開天文台100周年記念 **全国一斉天体観察会**	11/21（土） ①19:00-19:45 ②20:00-20:45	望遠鏡を使った観察に加えて、各地の天文台をつないで観察会のリレー中継を行います。	定員：60名 料金：大人350円 小人100円	要予約 昼間の部もあり
熟睡プラ寝たリウム	11/23（月） ～11/30（月）	静かな語りと音楽で眠りにいざなうプラネタリウム。今年のテーマは、太陽以外の恒星のまわりをまわる「太陽系外惑星」です。	定員：100名 料金：入館料	対象：中学生以上 上映スケジュールはHPを参照

要予約　このマークがあるイベントは、1ヶ月前から実施する施設ごとに予約を受付します。

三瓶自然館：0854-86-0500　三瓶小豆原埋没林公園：0854-86-9500（さんべ縄文の森ミュージアム）　三瓶山北の原キャンプ場：0854-86-0152

※イベントが変更中止の場合はHP等でお知らせします。
※毎週土曜日の天体観測会は予約制（HPから、その他はお電話）で実施しています。
※4月～11月の毎週土曜日の「北の原お散歩ツアー」、毎週土・日曜日と祝日の「天文ミニガイド」は、入館された方を対象に予約不要で開催しています。

Sanbe Field Museum News
さんべ発！
No.198　2026年9月号
島根県立三瓶自然館 ニュースレター

島根県立三瓶自然館サヒメル
○開館時間/9:30～17:00
○休館日/毎週火曜日
（火曜日が祝日の場合は翌平日）
年末年始、その他、メンテナンス休館あり



雲と風吹き抜けるススキ平原

大田市街を通る近世山陰道の脇に中世の僧侶西行法師をまつる西行堂があり、師が詠んだとされる「知らで見ば富士と言わむや石見なるさひめが嶽の雪のあけぼの」の歌が紹介されています。この角度から望む三瓶山は山頂が平らに見えて、「富士とは言わむ」の表現に頷けるかも知れません。

登ってみるとその山頂は確かになだらかで、その広さは標高1,100mの等高線で囲まれる範囲で約76,000㎡。甲子園球場のグラウンド5個分よりも広くその広さに対して高低差はわずか26mです。この山頂平原の広い範囲がススキに覆われています。

山頂高原の秋は早く8月の終わり頃にはススキの穂が出そろいます。やがて季節の歩みとともに穂が開いて綿毛に変わると日差しに白く輝くようになり、山頂を吹き抜ける風にススキがたなびきやわらかく波打つ様子は圧巻です。山道を登ってこそ出会うことができる、秋の特別な光景です。

35TH Special Thanks

<隔月発行>
三瓶フィールドミュージアムニュース
編集・発行　公益財団法人しまね自然と環境財団
〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根1121-8
TEL 0854-86-0500/FAX 0854-86-0501
<エコサポしまね> 〒690-0887 島根県松江市殿町8-3 / TEL 0852-67-3262
しまね自然と環境財団は、三瓶自然館等の指定管理者です。
エコサポしまね（松江事務所）では、地球温暖化対策等の事業を行っています。

01 自然のふしぎと感動を伝えて35年



三瓶自然館の外観

島根県立三瓶自然館サヒメルは、2026年10月に開館35周年を迎えます。開館以来、三瓶山の豊かな自然や島根県の動植物、地形・地質、そして宇宙の魅力を伝える自然系博物館として、多くの皆さまに支えられながら歩んできました。自然館を訪れた子どもたちが大人になり、今では自分の子どもを連れて来館されることもあり、35年という歳月の重みを感じます。

三瓶自然館は、大山隠岐国立公園三瓶山地区の中核的なビジターセンターであるとともに、「本物の自然そのものを博物館とする」という全県フィールドミュージアム構想の拠点施設として1991年10月に開館しました。当時は展示室やプラネタリウムを備えた現在の本館部分のみでしたが、2002年に博物館施設として拡充整備され、企画展示室やレクチャールーム、収蔵庫、天文台などが加わり、現在のサヒメルの姿となりました。

愛称である「サヒメル」は、このリニューアルオープンの際に一般公募で選ばれたものです。三瓶山の古称「佐比売山（さひめやま）」と、情報発信を意味する「メール」を組み合わせた名前で、今では多くの方に親しまれています。この35年間で来館者数は390万人に達しました（2026年7月末現在）。多くの方々がサヒメルで自然と出会い、その魅力にふれてくださったことを大変うれしく思っています。

サヒメルでは、常設の展示だけでなく、年3回の企画展や自然観察会、天体観察会などを開催するとともに、地域の動植物や地形・地質、そして宇宙に関する調査研究を進め、その成果を展示や教育普及活動をとおして広く発信してきました。また、学校教育との連携にも力を入れ、理科学習への支援や教員研修、自然科学部の活動支援、地域の自然や博物館資料を活用した学習プログラムの開発などにも取り組んできました。



島根フィールドミュージアムセンターの看板

この35年間で蓄積された標本や観察記録は、島根県の自然環境の変化を知る貴重な資料であり、未来の自然を考えるための大切な財産でもあります。自然を取り巻く環境が大きく変化するなか、地域の自然を記録し、その価値を伝え、次世代へ引き継いでいく博物館の役割はますます重要になっています。

三瓶山の草原を吹き抜ける風、季節ごとに表情を変える森、夜空を彩る満天の星。そして、そこに息づくたくさんの命。私たちが調べ、記録し、伝えてきたのも、この豊かな自然です。私たちの身近にある自然は、いつの時代もかけがえのない宝物です。35周年を迎えることができたのは、ご来館いただいた皆さま、地域の皆さま、関係機関の皆さまの温かいご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

これからも、サヒメルは地域の自然と向き合いながら、その魅力や価値を皆さまに伝える活動を続けてまいります。そして、調査研究や資料収集、教育普及活動をとおして、三瓶山と島根の自然を未来へ引き継ぐ役割を果たしていきたいと考えています。ぜひ、三瓶山の自然に会いにお越しください。

（学芸課長　星野由美子）



定礎は平成３年５月



サヒメルを支えるスタッフもさまざま

02 中秋の名月

2026年の中秋の名月（旧暦8月15日）は9月25日です。満月になるのは2日後の9月27日なので、この日の月は少しだけ欠けています。中秋の名月と満月の日付がずれることは、しばしば起こりますが、今回のように2日ずれるのは少し珍しく、前回は2017年、次回は2043年です。

中秋の名月にお月見をする習慣は、日本では、平安時代のころからはじまったそうです。月見団子とその年に収穫した芋（サトイモ、サツマイモ）やクリなどの畑の作物をお供えし、ススキを飾ります。また、旧暦8月15日は「芋名月」、同じく旧暦9月13日（今年は10月23日）は「豆名月」や「栗名月」とも呼ばれ、8月の月見をすれば、9月の月見も必ずするものだという地域もあるそうです。みなさんも、今年は2回のお月見を楽しんでみてはいかがでしょう。

（学芸課天文事業室　矢田猛士）



お月見のお供え

Shimane Nature Museum of Mt.Sanbe